

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K00755

研究課題名（和文）認知症とともに「老いを生きる」高齢者の尊厳とQOLを保障する在宅ケアモデルの構築

研究課題名（英文）Construction of a home care model that guarantees the dignity and quality of life of older adults with dementia who are aging

研究代表者

沖中 由美 (Okinaka, Yumi)

岡山大学・保健学域・准教授

研究者番号：50310892

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、地域で暮らす高齢者のQOLを支える在宅ケアモデルの構築を目指し、認知症高齢者が人生経験を通してどのような老いの生き方・暮らし方を望んでいるのか、さらに家族やケア提供者が、認知症高齢者の望む老いの生き方・暮らし方をどのように捉え、どのような支援をしているのかを明らかにした。そのうえで、認知症高齢者が人生の最後まで望む老いの生き方・暮らし方を可能にする在宅ケアモデルを検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、認知機能が低下し、自分の思いを言葉で語るようになる認知症高齢者の望みを引き出し、支え、意思決定を支援しながらQOLを保障するケアのあり方を検討するうえで非常に重要な示唆を得ることができた。本研究の成果は、在宅で生活している認知症高齢者の望む生き方・暮らし方を支え、人としての尊厳を保障しながら日常的なケア実践に活用可能な在宅ケアモデルとして、今後も検証を重ねることにより有用性が期待できる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to construct a home care model that supports the quality of life among older adults living in the community, and clarified what kind of life style and lifestyle older adults with dementia want through their life experiences, and how their families and care providers perceive and support the life style and lifestyle they want. The study also clarified how family members and care providers perceive the way of life of older adults with dementia and how they support them. I then examined a home care model that enables older adults with dementia to live the way they want to live until the end of their lives.

研究分野：高齢者看護，在宅看護，家族看護

キーワード：認知症 人権 Quality of life (QOL) 在宅ケア エンドオブライフ 希望 家族 意思決定支援

## 1. 研究開始当初の背景

わが国では、65歳以上の4人に1人が認知症およびその予備軍と言われている。今後、認知症高齢者はさらに増加することが見込まれるなか、認知症の人の意思が尊重され自分らしく暮らし続ける社会の実現を目指し、病気や障がいをもったとしても在宅を拠点として生活し続けられる地域包括ケアシステムの整備が社会的課題である。一方、高齢の在宅療養者は、医療依存度の高い状態にある人が増え、病気や障がいは重度さを増しながら認知症を伴うという多様で複雑な疾病構造を有することが多くなった。また、世帯構造において、夫婦のみ世帯、単身世帯の増加などにより高齢者の在宅療養・介護は複雑さを増している。わが国は諸外国においてもこれまで経験のない超高齢社会に突入しており、認知症高齢者に対するケアにおいて、認知症という病気について正しく理解したうえで適切に対応することに加え、世界に先駆けて、「老いを生きる」ことをどのように支援するのかについて検討する必要がある。

研究者は、これまでに、地域で暮らす高齢者のQOLを支える在宅ケアモデルの構築を目指し、科学研究費による助成を受けて、在宅で療養する高齢者夫婦および独居高齢者の健康と生活に関する調査を重ね、自分らしくいきいきと生き続けられる在宅療養支援のあり方を検討してきた。そのなかで、認知機能の低下により意思表示の困難さや生活場面において様々な障がいを伴う認知症高齢者の老いをどのように捉えて支援するのが火急の課題として見出された。

認知症高齢者の在宅療養や介護に関するこれまでの研究を概観すると、家族介護者の意思決定プロセスや、家族の介護評価など家族介護者を対象とした調査は重ねられてきている。一方、認知症高齢者の体験として、認知機能の低下に伴う不安や揺れ動く思いが自分の言葉で語られ始めたが、報告数は少なく今後の調査が期待されている。他方、認知症ケアについては、地域在住高齢者の認知症重症度を評価するためのツールの開発などが報告されている。しかし、これまでの認知症高齢者に関する調査では、長い人生を歩んできた高齢者の老いの生き方・暮らし方を支援するという視点での研究は見受けられない。

病状が進行し、認知機能が低下するに伴って次第に思いや考えを他者に伝えられなくなり、自らの生活をいずれは家族やケア提供者に委ねなければならなくなる認知症高齢者だからこそ、語ることでできる認知症高齢者の自らの老いの生き方に対する思いや考えを確認することは、尊厳を護り、QOLを支えるうえで非常に重要である。また、在宅療養を支援するうえで認知症高齢者の望む生き方・暮らし方を家族やケア提供者がどのように理解するのかは、どこで誰とどのように暮らすかというQOLを支えるケアの方向性を決定づけ、「人生の終焉まで自分らしく生きられるかどうか」という人としての尊厳にまで影響が及ぶ。したがって、認知症高齢者と家族およびケア提供者の三者の視点に立ち、それぞれの立場から分析することは非常に意義深い。

## 2. 研究の目的

本研究は、認知症高齢者が人生経験を通してどのような老いの生き方・暮らし方を望んでいるのかを明らかにしたうえで、家族やケア提供者が、認知症高齢者の望む老いの生き方・暮らし方をどのように捉え、どのような支援をしているのかを明らかにする。そのうえで、認知症高齢者が人生の最後まで望む老いの生き方・暮らし方を可能にする在宅療養支援のあり方を検討する。

### 目標

- 1) 認知症高齢者は、これまでの人生体験を通して自らの老いをどのように意識しているのか、また、病気や症状に伴う体験を通してどのような思いや感情をいただいているのか、さらに、今そしてこれからの人生においてどのような生き方や暮らし方を望んでいるのかについて明らかにする。
- 2) 認知症高齢者を介護している家族は、認知症高齢者の病気に伴う思いや感情、望む老いの生き方・暮らし方をどのように認識し、どのように支援しているのかについて明らかにする。
- 3) ケア提供者は、認知症高齢者の望む老いの生き方・暮らし方、および認知症高齢者の望む老いの生き方・暮らし方に対する家族の認識と支援方法について、どのように捉えケアを提供しているのかについて明らかにする。
- 4) 以上の結果を踏まえ、認知症高齢者と家族に対する在宅療養支援のあり方を検討する。

## 3. 研究の方法

### 1) 面接調査

#### (1) 対象者

認知症と診断されており、会話が可能で、中国・四国地方の居宅介護支援事業所や訪問看護事業所等（以下、事業所）でケアサービスを利用している65歳以上の在宅療養者とその主介護者である家族、および担当のケア提供者を1組として12組であった。

## (2) データ収集方法

研究倫理審査委員会で研究計画書の承認を受けたのち、事業所の管理者に研究の目的と倫理的配慮を説明し、対象者の条件に合う高齢者とその家族の紹介を受け、研究協力の依頼と説明のために研究者が訪問することについての内諾を得た。次に、認知症高齢者とその家族、および担当のケア提供者に、説明文書を用いて口頭で研究協力を依頼し、同意書への署名による同意を得て、面接および参加観察を実施した。面接は1回につき約60分であった。

## (3) 分析方法

逐語化した面接内容を繰り返し読み、1組ごとに「認知症高齢者の望む暮らしは何か」、「家族とケア提供者は認知症高齢者の望む暮らしをどのように捉えているか」、「ケア提供者はどのような支援をしているのか」について語られた内容を抽出してコード化し、共通性と相違性を検討しながらカテゴリ化した。また、質的研究における厳密性を保障するために、語られた内容を対象者に確認し、さらに分析結果をケア提供者に伝えて分析の信用性と確証性を保障した。

## 2) 質問紙調査

### (1) 対象者

無作為層化抽出した居宅介護支援事業所、訪問看護事業所に勤務し、認知症高齢者に直接ケアを提供している保健医療福祉職者

### (2) データ収集方法

面接調査による結果に基づいて分析モデルを作成し、既存尺度を検討しながら認知症高齢者の望む老いの生き方・暮らし方を支えるケア実践に関する自己記入式質問紙調査票を作成した。次に、郵送により事業所に研究協力を依頼し、協力意思を確認した後、調査票を事業所宛に発送した。調査票は無記名とし、回答後は個別に直接研究者宛に返送してもらった。

具体的には、中国・四国地方3県の高齢者福祉課に電話で研究の概要を説明し、居宅介護支援事業所834か所と訪問看護事業所303か所、合計1137事業所の所在を確認した。すべての事業所の管理者宛に研究協力依頼文書と質問紙調査票の見本を同封し、研究に協力可能な場合は回答可能な人数を記載してもらい、FAX送信により回答を得た。協力可能な事業所は、居宅介護支援事業所185か所と訪問看護事業所59か所、合計244か所であった。次に、居宅介護支援事業所774人(1事業所当たり平均4.2人)と訪問看護事業所328人(同5.6人)の合計1102人に質問紙調査票を送付し、780人(回収率70.8%)から回答を得た。回答に著しく不備のあるものをのぞいた有効回答数は769(有効回答率98.6%)であった。調査期間は、2020年10月~12月。

### (3) 分析方法

各調査項目の記述統計量を算出したのち、認知症高齢者の望む老いの生き方・暮らし方を支えるケアモデルを検討するために構造方程式モデリングにより分析した。

## 4. 研究成果

本研究は、在宅で生活している認知症高齢者とその家族、担当のケア提供者に、認知症高齢者の望む生き方・暮らし方について面接調査を実施し、その分析結果(Table1-3)に基づいて質問紙調査票を作成し、統計学的に分析を行った。在宅ケアモデルの構築に向けて、在宅で生活している認知症高齢者の望む生き方・暮らし方の認識と支援の実態をとらえる分析モデルを設定し、分析を繰り返しながら検証を行った。本研究成果は、国内外の学術集会において、随時、研究成果を報告した。

本研究により、在宅で生活している認知症高齢者の望む生き方・暮らし方を支えるために日常的なケア実践に活用可能な在宅ケアモデル指標として有用性が期待できる成果を得ることができた。また、認知機能が低下し、自分の思いを言葉で語ることが難しくなる認知症高齢者の望みを引き出し、支え、意思決定を支援しながらQOLを保障するケアのあり方を検討するうえで非常に重要な示唆を得ることができた。今後の展望として、分析モデルの検証を繰り返し、多職種が活用可能な在宅ケアモデルを精練していく。

Table 1. Desired Lifestyle of Older adults with Dementia Living at Home

| Category   | Code   |
|--|--|
| I continue to be proud of my way of life to date.        | I live with pride.<br>I maintain my beliefs in order to survive.<br>I keep my age very self-evident.   |
| I want to do what I can now, even if I can't do it well. | I still have a sense of accomplishment and fulfillment in my work.<br>There's something I can do now, even if I'm going to forget more.<br>I want to work more, even if I didn't like it when I was young. |
| I live peacefully with family.                           | I always enjoy myself through the hobbies I can do now.<br>I feel happiest now, when I live peacefully with my family.<br>Being an elderly couple, we live together by supporting each other.              |
| I want to go out and interact with people.               | I want to get in contact with people and talk.<br>I want to go out of the house.   |
| I care about living in the present.                      | I want a continuation of a carefree daily life.<br>I want to continue to live in peace.<br>It was a good life.   |

Table 2. Lifestyle Desired by Older Adults with Dementia as Perceived by Family Members

| Category   | Code   |
|--|--|
| I want to continue living at home peacefully as it is. | I would like to continuing the lifestyle habits of the past.<br>I would like to talk because I have less interaction with acquaintances and neighbors and I feel lonely.<br>I'm still happy that I'm living like myself. |
| I want to live my own life.                            | I would like to continue living at home as it is now.<br>I want to work and move.<br>I will be giving up on my current life.   |
| I wouldn't think of anything.                          | I wouldn't think of anything anymore.  |

Table 3. Support for Care Providers to Support the Desired Lifestyle of Older adults with Dementia

| Category  | Code   |
|---|--|
| Respect as individuals  | Celebrate proud feelings of work, academic background, etc.<br>Do not deny words and actions<br>Be recognized as a necessary entity  |
| Bringing out and leveraging what you can do with your current capabilities and linking care | Determine what you can do by taking advantage of the work and hobbies you have done over the years.<br>Sharing information with multiple organizations and occupations and linking care  |
| Support family members to confirm their satisfaction with life                              | Recognize and celebrate family involvement and hard work<br>Meet the anxiety of the family<br>Assess the burden of long-term care and provide guidance on long-term care skills<br>See if older adults with dementia and their families live peacefully. |
| Supporting Decision-Making with Forecasts of Future Progress                                | Managing care services for older adults with dementia, considering comfort and the environment<br>Confirm with family members where and how the older adult would meet the end of their life.  |

引用（以下論文から一部抜粋）

Yumi Okinaka. Desired Lifestyle of Older Adults with Dementia Living at Home from Their Perspective and That of Their Families with Support from Care Providers. *Health*, 2021, 13, 1460-1474.  
<https://doi.org/10.4236/health.2021.1312104>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

|  |                           |
|--|---------------------------|
| 1. 著者名<br>Okinaka Yumi   | 4. 巻<br>13                |
| 2. 論文標題<br>Desired Lifestyle of Older Adults with Dementia Living at Home from Their Perspective and That of Their Families with Support from Care Providers | 5. 発行年<br>2021年           |
| 3. 雑誌名<br>Health   | 6. 最初と最後の頁<br>1460 ~ 1474 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.4236/health.2021.1312104   | 査読の有無<br>有                |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-                 |

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Yumi Okinaka   |
| 2. 発表標題<br>Relationship between Moral Sensitivity and Care among Home-Visiting Nurses who Provide Care to Older Adults with Dementia Living at Home |
| 3. 学会等名<br>The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science（国際学会）  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>沖中 由美                         |
| 2. 発表標題<br>認知症高齢者の望む生き方・暮らし方を支えるケア提供者の支援 |
| 3. 学会等名<br>第26回日本在宅ケア学会学術集会              |
| 4. 発表年<br>2021年                          |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>沖中 由美                          |
| 2. 発表標題<br>在宅で暮らしている認知症高齢者を支援する多職種間のケアの特徴 |
| 3. 学会等名<br>第41回日本看護科学学会学術集会               |
| 4. 発表年<br>2021年                           |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>沖中 由美                            |
| 2. 発表標題<br>訪問看護サービスを利用している認知症高齢者の望む生き方・暮らし方 |
| 3. 学会等名<br>日本看護研究学会 第46回学術集会                |
| 4. 発表年<br>2020年                             |

|                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>沖中 由美                  |
| 2. 発表標題<br>認知症とともに在宅で老いを生きる高齢者の希望 |
| 3. 学会等名<br>第40回日本看護科学学会学術集会       |
| 4. 発表年<br>2020年                   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>沖中 由美                              |
| 2. 発表標題<br>認知症のある百寿者の老いの認識と家族およびケア提供者のかかわりの様相 |
| 3. 学会等名<br>日本看護研究学会 第45回学術集会                  |
| 4. 発表年<br>2019年                               |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>沖中 由美                            |
| 2. 発表標題<br>多世代で暮らしてきた認知症高齢者の意志を汲みとり望みを叶える支援 |
| 3. 学会等名<br>第39回日本看護科学学会学術集会                 |
| 4. 発表年<br>2019年                             |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Yumi Okinaka   |
| 2. 発表標題<br>The aging lifestyle of older adults with dementia living at home and the support provided by their family members and caregivers |
| 3. 学会等名<br>The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)                                     |
| 4. 発表年<br>2020年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>沖中 由美                            |
| 2. 発表標題<br>アルツハイマー型認知症と診断されている超高齢者のライフストーリー |
| 3. 学会等名<br>第38回日本看護科学学会学術集会                 |
| 4. 発表年<br>2018年                             |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|